

イネカメムシ越冬状況調査結果について

令和7年3月31日
埼玉県病害虫防除所

イネの穂を激しく加害して不稔や斑点米を引き起こすイネカメムシについて、越冬場所と越冬量を把握するため越冬状況調査を行いました。

調査の結果、イネカメムシ越冬成虫が100地点で確認され、全172地点の58.1%に達し、広範囲で越冬していることが確認されました。調査地点中、全体の傾向としては落ち葉内や落ち葉の下で越冬成虫を確認できた割合が57～88%と高く、ジャノヒゲ株内やススキなどイネ科雑草株元でも約50%の地点で越冬成虫が確認されました。

また、越冬密度の把握を目的に調査面積を定めて調査を実施した結果、落ち葉内や落ち葉の下で1㎡当たり12.4～42.4頭、雑草地で3.8頭であったほか、ジャノヒゲ株内で279.4頭に達しました。

このように、本年は越冬成虫数がきわめて多いことが明らかであり、水稻においてイネカメムシが多発生となるリスクがきわめて高いと考えられますので、広域で適切な防除を行ってください。

1. 調査時期

令和6年11月1日～令和7年3月18日

2. 調査地点

県内21市10町

さいたま市（西区・桜区・岩槻区）、川口市、鴻巣市、草加市、志木市、川越市、富士見市、東松山市、滑川町、嵐山町、小川町、川島町、吉見町、本庄市、美里町、神川町、熊谷市、深谷市、寄居町、行田市、加須市、羽生市、久喜市、蓮田市、白岡市、春日部市、越谷市、幸手市、吉川市、杉戸町、松伏町、

3. 調査方法

- (1) 前年の多発生地や周辺の環境を考慮して予備的な調査を実施し、イネカメムシ越冬成虫を確認した場所を主体に、以下の手法で「本調査」を実施。
- (2) 林地、林床、生垣等から1地点につき2～4か所（各0.25～1㎡）の落ち葉を採取。採取した落ち葉内に潜入して越冬しているイネカメムシ成虫の個体数を調査。
- (3) 畦畔や法面などのジャノヒゲ株を対象に、30～50cm四方の範囲をかき分けて調査し、目視により越冬成虫を採集、計数。
- (4) ススキ等の雑草の株元や立ち木の株元について、調査場所の状況に応じて30～50cm四方の範囲を調査し、目視により成虫を採集、計数。
- (5) 堤防や雑草地について、原則として1m四方の範囲の複数地点を対象にかき分けて調査し、目視により成虫を採集、計数

4. 結果

調査の結果、越冬成虫を確認した場所では全体として以下のような傾向が認められました。

- ①冬の季節風が当たりにくく、南側や西側に開けていて陽だまりになりやすい場所。
- ②落ち葉が堆積しており、乾燥しておらず適度な湿度が保たれている場所。
- ③表土が柔らかかったり、堆積物や落ち葉の腐植化が進んでいて膨軟な場所。
- ④厳冬期でも緑色の葉をつけているイネ科雑草の株元やジャノヒゲの株内。
- ⑤耕地や堤防などの開けている場所よりも、北側や東側に構造物や林がある場所。



日当たりの良い生垣下に
堆積した落ち葉



水田に隣接する運動場脇に
吹き寄せられた落ち葉



ジャノヒゲの株内で
越冬中の成虫

(1) 調査総数の内訳(予備調査・本調査の計)

調 査 場 所	調査地点数	成虫確認 地点数	同左割合(%)
落ち葉内・落ち葉の下			
林内	5	3	60.0
林縁	7	4	57.1
植え込みの下	21	17	81.0
生垣下	5	4	80.0
ジャノヒゲ共	8	7	87.5
構造物わき	6	5	83.3
その他	37	25	67.6
立ち木			
株元	11	4	36.4
篠地			
堆積物・落ち葉下	3	1	33.3
ジャノヒゲ			
株内	20	10	50.0
河川敷・堤防			
雑草等	5	0	0
雑草地			
ススキ等の雑草株元	15	8	53.3
水田			
畦畔雑草等	3	0	0
刈株・わら	12	4	33.3
その他			
人工物等の下	5	3	60.0
果樹カメムシ類越冬調査			
林内落ち葉	9	5	55.6
合計(地点数)・平均(割合)	172	100	58.1



落ち葉の下や浅い土中で
越冬中の成虫

(2) 本調査における個体密度

調 査 場 所	調査 地点数	成虫確認 地点数	同左割合 (%)	個体密度 頭/㎡
落ち葉内・落ち葉下				
林内または林縁	15	10	66.7	12.4
植え込み下・生垣下等	18	18	100	42.4
その他	19	17	89.5	25.9
ジャノヒゲ株内	6	6	100	279.4
雑草地(ススキ等のイネ科雑草)・堤防等	9	4	44.4	3.8
水田内(刈株)	10	4	40.0	0.0014

※上表の落ち葉調査(林内)には果樹カメムシ類越冬調査 9 地点を含む。

(3) 果樹カメムシ類越冬調査時に混獲されてきた イネカメムシの状況

採取地点	令和7年	令和6年
東松山市松山	0	0
北本市荒井	—	0
鴻巣市関新田	24	—
寄居町鉢形	0	0
神川町新里	0	0
加須市上種足	192	2
蓮田市高虫	16	0
春日部市内牧	0	0
久喜市清久	227	8
久喜市菖蒲町	4	—
合計	463	10
1地点あたり平均頭数	51.4	1.3
1地点あたり密度(頭/㎡)	17.1	0.4
確認地点率(%)	55.6	25.0



注) 果樹カメムシ越冬調査で混獲されたイネカメムシは
計数時に死亡していたものも含まれます。

5. 生態と被害

越冬した成虫が6月下旬から7月上旬にかけて水田および周辺のイネ科雑草に飛来します。早期栽培水田では出穂前から成虫が侵入し、交尾・産卵を行います。また、7月下旬以降は出穂期の水田に成虫が侵入し、穂を加害します。

出穂期～乳熟期に激しく加害されると不稔となり、登熟期の加害により基部斑点米が生じ、収量および品質を著しく低下させます。



イネカメムシ成虫(上)と
斑点米被害(下)

6. 令和7年産水稻で注意する点

越冬明けの、発生初期段階から多発生が見込まれます。6月下旬以降水田内外を注意深く観察して侵入有無を確認するとともに、出穂期とその8～14 日後の2回、必ず防除を行ってください。とくに、周囲の水田に比較して出穂時期が早い、または遅い水田は集中的な加害を受けるリスクが高いため、発生状況に応じて防除回数を増やす等の対応を取ってください。

集中的な加害を回避するため、出穂時期が極力揃うよう地域内での作型・品種選定も十分に検討してください。